

<2020年度 オリンピック・ムーブメント事業>

オリンピック教室

実施報告書

埼玉県 三郷市立瑞穂中学校

Olympic
Movement



公益財団法人日本オリンピック委員会

「オリンピック教室」の実施にあたって

現行の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「オリンピック・ムーブメント事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和2年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 実施目的** : オリンピアン(オリンピック出場経験アスリート)が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことのできるものであることを学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン(オリンピック出場経験アスリート)
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 2020年4月～2021年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 80校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1コマ目
運動の時間(50分)



2コマ目
座学の時間(50分)



※学校の通常の授業時間に実施

※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります

1コマ目

運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介
学習内容の確認



準備体操



主運動
(作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ

2コマ目

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後活かせるような学習内容

座学の時間

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



学習内容の確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験に
基づく「オリンピックの価値」
等を伝える



個人またはグループワーク
で話し合った内容を発表



全体のまとめ
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって変動する場合があります

●時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間・座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上での調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。

実施内容

■期 日 : 2020年10月9日(金)

■ク ラ ス : 2年1組(32名)

■オリンピアン : 伊藤 俊介 先生(水泳/競泳)【出場オリンピック/アトランタ大会】

■授業のながれ : 運動の時間 (1時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・自己紹介後、オリンピックバリューについて「エクセレンス=努力する、頑張る」「フレンドシップ=友情、助け合う」「リスペクト=尊敬する、称え合う」と説明。2時間の授業を通してオリンピックバリューを意識しながら取り組むよう伝え、準備体操に移る。
- ・ストレッチ、手拍子ジャンプを実施。

2. 準備体操



3. 主運動



- ・陸上版メドレーリレー（背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライ、自由形）を5班対抗戦で3回実施。
- ・各班工夫しながら、より早くゴールすることを競う。
- ・各回終了後に作戦タイムを設け、より早くゴールする為にはどうしたらよいかを話し合う



4. まとめ



- ・授業の冒頭に意識して取り組むように伝えたことができたかを確認。
- ・座学の時間は、伊藤先生の経験を通してさらにオリンピックバリューについて学んでいくと予告し、授業終了。



■ 授業のながれ：座学の時間（2時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



2. オリンピックの価値を伝える



- ・改めてオリンピックバリューの意味を具体的に確認した後、クーベルタンやオリンピック開催の意義、来年の東京2020大会等について説明。
- ・自身の経験を通して感じたオリンピックバリュー「エクセレンス＝努力する、ベストを尽くす」、「フレンドシップ＝友情、協力、仲間」、「リスペクト＝敬意／尊重」に関するエピソードを伝える。

3. グループワーク



- 発問：コロナ禍の中、自分たちが生活する上で、改めて大切だと気付いたことを書き出してみる。
- 発表：部活に関して、今まで部活が休みの日は、別の場所で練習していたが、休みを取ることも必要だということ、休みの間に体力が落ちたため、努力を継続する必要があること等(エクセレンス)。友人関係について、コミュニケーションを取ること等(フレンドシップ)。毎日たくさんの家事をこなす母や、コロナの中で必死に働いてくれる人に対する感謝や尊敬(リスペクト)。

4. まとめ



- ・コロナ禍にあるからこそ、以前には「当たり前」だと思っていたことの中に、大切なことがあるということに気づくことができたと思う。
- ・この学校が目指す「学校像」には、「笑顔、自信、絆」があるが、これらもオリンピックバリューにつながっている。自信はエクセレンスやリスペクト、絆はフレンドシップ等である。特に伊藤先生が一番好きな言葉は、「笑顔」で、笑顔は皆を勇気づけてくれるだけでなく自信にもつながる。
- ・今後の人生の中で、好きなことを見つけ、その目標を達成するために頑張ってもらい、と伝え授業終了。

実施内容

■期 日 : 2020年10月9日(金)

■ク ラ ス : 2年2組(32名)、2年3組(33名)

■オリンピアン : サイド横田 仁奈 先生(体操/新体操)【出場オリンピック/ロンドン大会】

■授業のながれ: 運動の時間(3時限、5時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・自己紹介後、オリンピックバリューを説明し、特に運動の時間を通して、「エクセレンス・フレンドシップ・リスペクト」という3つの言葉の意味を理解してもらいたい、と授業の目的を確認。
- ・新体操ではつま先を伸ばして行う動きが多いため、今日は皆にもつま先を伸ばすことを意識しながら行うよう伝え、準備運動に移る。
- ・準備体操として、各種ストレッチ、腹筋、集団行動、ラダートレーニングを実施。

3. 主運動



- ・障害物リレー(全2回) ※2組は全3回を2班毎3チームで実施。
- ・各班工夫しながら、より早くゴールすることを競う。
- ・各回終了後に作戦タイムを設け、より早くゴールする為にはどうしたらよいかを話し合う。



2. 準備体操



4. まとめ



- ・運動の時間に感じられたオリンピックバリューについて、チーム内で褒め合い、称え合っていたことがフレンドシップに繋がり、一生懸命頑張ると言うことがエクセレンスに繋がる。座学の授業で運動の時間を振り返りながら、自身の経験を踏まえて詳しく伝えていくと予告し、授業終了。

■ 授業のながれ：座学の時間（4時限、6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・ロンドン大会等の映像を見せながら新体操のルールについて解説。
- ・座学の時間も、自身の経験を通して感じたオリンピックバリューやオリンピックの意義、オリンピックの創設者等について説明。
- ・サイド横田先生の経験を通して感じたオリンピックバリューについて「エクセレンス＝卓越、努力し続けたこと」、「フレンドシップ＝友情、お互いを理解する、団結力」、「リスペクト＝敬意/尊重、様々なサポートへの感謝」と説明。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク（個人ワーク）



- 発問:各自で夢や目標を設定し、それを叶える為に、このオリンピックバリューをどのように活かせるかを考えてみる。(学校生活、部活、家庭、習い事等)
 発表:どんな困難があっても諦めない強い人間になる、チームの団結力の底上げ、技術力アップ、コンクールで賞を獲得他
 「何事にも努力する」、「毎回の練習に全力で取り組む」等(エクセレンス)、「お互いを思い合って協力し合う」、「相互理解」他(フレンドシップ)、
 「お互いの意見を言い合う」、「1回1回の練習に全力を出す」、「指導してくれる先生への感謝」等(リスペクト)

4. まとめ



- ・オリンピックバリューは、横田先生がオリンピックに出場するために心に留めて実践してきたが、皆が目標や夢を実現するためにも活かせると思う。
- ・今後の生活の中で、様々な目標や夢を実現する時に役立てほしい。
- ・目標や夢は大きい、小さいに関係なく、文字に出して考えてみることでより叶いやすくなると思うので、今後も継続してほしい、と伝え授業終了。

■ 集合写真

2年2組



■ 記念品贈呈
2年2組



■ 修了証贈呈

